

協力

72



伝道団体連絡協議会

〒101-0062
東京都千代田区神田駿河台2-1 OCC 614号室
Tel. 03-3291-5035
www.dendankyo.com

FRONT ESSAY

「多くの人、物、きれいな
自然を飲み込んだ」



3月11日、総動員伝道では事務所で委員会を開いていた。突然の揺れに「普通ではない」と直感した。戸を開けた途端に、崩れた通路の壁や天井からの砂埃が部屋に吸い込まれるように入ってきた。食器類が棚から落ちて割れた。

東日本では想像を超えた被害状況だった。連日、被災の状態が休みなく報道された。キリスト教会はすぐに支援活動を展開した。伝団協の仲間である、国際飢餓対策機構、ワールド・ヴィジョン、BFPは大掛かりな救援体制をもって活動を開始した。個々の教会が、関係教会への援助を開始し、ボランティアを送り込んだ。ところが必要な情報が得られないまま現地入りしているため、無駄な動きが多かったと聞いている。そこで東日本大震災救援キリスト者連絡会が総伝の隣の部屋に設置された。支援を求める教会と支援する教会との橋渡しを目的としている。みなさんが得ている情報を info@drcnet.jp に送って欲しい。

復興には長い期間が必要だろう。さらに原発の課題は大きい。東日本から疎開した人々も多い。街ぐるみで逃げている。物質的援助だけでなく、これからは健康・精神・感情・こころのケアが必要となる。神の恵みを届けよう。ぬくもりのある手、話を聞く耳、同情し励ます心が求められる。クリスチャンであるお互いが出来ることをしよう。まず祈ろう。祈りから始めよう。



会長

姫井雅夫
(総動員伝道)

伝道団体連絡協議会 第27回総会のご報告

2011年4月22日(金)午後2時より4時まで、お茶の水クリスチャンセンタービル、9階会議室にて「伝道団体連絡協議会 第27回 総会」が行われました。

第一部の礼拝では、讃美歌17番、18番の賛美の後、聖書エゼキエル書47章1節から5節のみことばが開かれました。姫井会長は3月11日の東日本大震災と大津波という未曾有の災害に沿ったメッセージが語られました。

その要点は、①神のところから水が出て行った。②神の導いてくださる方向に従って進んで行った。③その結果、豊かな神の恵みがくるぶしから腰にまで及んだ。破壊の津波ではなく、恵みの水が注がれることを祈ろう、と結ばれました。また、4月11日、淀橋教会を会場にして超教派で震災支援のための祈禱会が開かれ、今後も毎月11日に継続的に祈って行くことになった、と報告されました。伝道団体連絡協議会としても何が出来るかを神に祈り求めよう、と語られました。

第二部の総会では、出欠の確認が為されました。

出席は、お茶の水クリスチャンセンター、国際ナビゲーター、新生宣教団、総動員伝道、小さいのちを守る会、ミクタム・レコード、ワールド・ビジョン・ジャパン、プレイズ出版、ワンウェイ・ストリートの9団体。

当日欠席で委任状を出している団体が、アジアン・アクセス、いのちのことば社伝道グループ、全日本リバイバルミッション、太平洋放送協会、光のミッション、日本聖書協会、高校生聖書伝道協会(hi-b.a.)、ブリッジス・フォー・ピース・ジャパン、パラビジョンの9団体。

欠席の団体は、いのちの水・計画、教会インフォメーションサービス、クリスチャン文書伝道団、こころの友伝道全国連合会、JTJ宣教神学校、日本キャンパス・クルセード、日本キリスト伝道会、日本国際飢餓対策機構、ハーベスト・タイム・ミニストリーズ、ビー・ジャパン、近畿福音放送伝道協力会、YWAM。

出席9団体、委任状9団体、計18団体で、加盟30団体の三分の一以上に達し、総会の定足数を満たしていることが確認されました。

総会の議長に姫井雅夫氏、書記に国井昌光氏が選出され、議案として、2010年度の活動報告、会計報告、会計監査報告、引き続いて2011年度の活動計画案、会計予算案、役員選出が為されました。

今回は、総会の中で、加盟団体のワールド・ビジョン・ジャパンの方から東日本大震災の被災地の現場での支援活動の報告を詳しく伺うことができたことも良い機会となりました。また、伝道団体連絡協議会の加盟団体相互の協力体制づくりや加盟団体を増やして行くことも話し合われました。今回の総会では、また新たにワンウェイ・ストリートが新しい加盟団体として私たちの仲間に加わっていただきました。総会を経て新たな2011年度の働きがスタートしました。神様の祝福が豊かにあらわされ、また新しく加盟してくださる団体が与えられて行きますようにお祈りください。

日本聖書協会 菊池 義弘

思いがけない3重苦

伝道団体連絡協議会会長 姫井雅夫



アメリカの9・11のTV映像がまだ生々しく脳裏に焼きついている。それにも勝る恐ろしい映像が飛び込んできた。3・11。マグニチュード9という、千年に1度の大地震が東日本を襲った。それだけではない。それによって引き起こされた津波は被害をさらにさらに大きくした。ぐっと引いていった海水が、大きなうねりとなって陸地に戻ってきた。その勢いは、速さは想像を絶する。あっという間にすべての物を飲み込んだ。人、家、車、海に浮かんでいた大きな船が建物の上ののしかかっている。なんという情景。悲惨である。叫びを超えて、声にならない。

地震で破壊された原子力発電所、そこから漏れ出てくる放射能汚染。地震、津波、放射能汚染。まさに3重苦である。

日本中から、世界から、すぐさま救援の手が伸ばされた。といっても家族を失った、家を失った、仕事を失った。なにもかも無くなった。0からの再出発を迫られている。このような方々に対して、私たちに何が出来るのだろうか。

義援金を送る、寒さをしのげるように毛布を送る、炊き出しのおにぎりを差し上げる。何をしても小さすぎる。ある被災者はなげくように言った。「3月10日にもどしてくれ!」しかし現実に戻せない。

避難所をはじめ、公民館、学校、教会に支援物資が運ばれてきた。その分配も難しい課題のようだ。車もなく、ガソリンもないという状況がしばらく続いた。でも今はその不便さはなくなった。高速道路や飛行場の復旧は早かった。さすが日本!と思った。

落ち着きを取り戻しつつある被災者の方々は、無くしたものの大きさに改めて愕然としていることだろう。さきは長い。大きな出来事も風化する。前に向かって進まねばならないが、後ろの物が重くて先へ行けない。

この写真の舟も間もなく取り除かれるだろう。海岸沿いの土地は都市計画で新しい街に変貌していこう。復興は外見、すばやくなされていこうが、人々の心はおさざりにされていくかもしれない。

私たち、伝道団体の仲間に、国際飢餓対策機構やワールド・ビジョンがある。その他の団体もそれぞれのかかわりの中から、救援・支援の活動を展開している。短期の応援はすぐにでも出来る。でもこれから長期にわたる救援



が必要なのだろう。会堂を失った教会は、会堂をどこに、いつ頃から建て替えることが出来るのだろうか。たとえ会堂を建てても、地方に避難し、戻れない、戻らない会員が多いと、教会としての再開は難しい。

呆然と立ちすくむ人々といつまで沿いえるだろうか。「わたしはあなたを離れず、あなたを見放さない」という主の恵みを伝えたい。とにかく祈ろう、主の顧みを。





NEWS FLASH

伝団協 加盟団体の 近況・祈りの課題

No. 72
2011年
5月

●アジア・アクセス JCGI ネットワーク

・アジア・アクセス JCGI ネットワークは、キリスト教災害支援団体クラッシュ・ジャパンと協力し、被災地域の教会へのサポートと地域教会を通しての被災地の救援・復旧活動に取り組んでおります。この働きのためにお祈りください。

・JCGI 牧師研修の研修生・修了生の諸教会が力強く成長するように、また各地で開催される教会ネットワークが充実し、多くの教会が生み出され、日本を満たすようにお祈りください。

●いのちのことは社

被災地教会支援を行っています。聖書と絵本贈呈。トラクト無料配布。チャリティーコンサートの開催。恵みシャレー軽井沢を避難所として提供等。支援協力が与えられるように。

●お茶の水クリスチャン・センター

東日本大震災救援キリスト者連絡会が、被災者の方々にお役に立ち、継続した働きとなりますように。OCG 主催定期集会の開催が守られ、主に用いられますように。

●教会インフォメーションサービス

1. データを用いた教会への励ましをどんどん導かれるように。
2. これからの日本の教会、教団の前進をいのり、役立つ働きを進めることができるために、知恵が与えられるように。
3. 今年の年次集計の準備の働きが祝されるように。

●近畿福音放送伝道協力会

①近放伝は 2013 年に設立 40 周年を迎えます。今後の放送伝道の働きの幻が与えられ、よき準備がなされるように。

②東日本大震災の支援の働きに放送伝道としての利点を生かし霊的なメッセージが届けられるように。(福島県からのレスポンスが届いています)

●クリスチャン文書伝道団(CLC)

このたびの大震災で被災された教会の上に、心からのお見舞いを申し上げます。日本中が失望の中にありますが、CLC も微力ながら文書伝道の働きを前進させていきたいと願っています。

●国際ナビゲーター

仙台地区の宣教に関わりのある方が多数被災しており、現在仙台のスタッフと協力し、災害支援プロジェクトを進めています。被災された方々に主の慰めと癒しがあり、我々がみこころになつた支援ができますように。

●新生宣教団

日本全国に向けての無料配布トラクト、HOPE for LIVING キャンペーンを開始しました。

全部で 7 種類の冊子、トラクトが用意されています。読まれる方々が救いと希望を見出すことが出来ますよう、これらが用いられれば幸いです。また、引き続き聖書を持つことの困難な地域の兄弟姉妹たちのためにも聖書制作を進めています。確実に手元へ届けられますように。合わせてお祈り

りいただければ幸いです。

●全日本リバイバルミッション

韓国で行われるリバイバルミッションが祝福されますようにお祈り下さい。(※春川リバイバルミッション 5月25日(水)～27日(金))

会場 / 春川平和監理教会 ※ソウルリバイバルミッション 6月1日(水)～4日(土)会場 / 韓国基督教 100 周年記念館)

●小さないのちを守る会

・東日本大震災被災地の妊婦の支援を呼びかけています。ホームステイ受入申出も多くいただいています。1 人でも多くの被災地の小さないのちを守ることができるようお祈りください。

・2011 年度、各支部もそれぞれの新しいビジョンに燃えています。その一つ東京支部も 20 数年間続いている軽井沢キャンペーンの荒井志郎写真展を計画。東京福音センター(銀座教会 1 階)と町田市民会館で 6 月と 7 月に開催して、いのちの尊さを訴えと共に、東日本大震災のチャリティーにも協力します。タイトル:「いのち輝かせて」

●日本キリスト伝道会

未曾有の震災に遭われた方々の上に主の癒しと平安がありますように。また不思議な神の業が東北から起こるのではないかと、原登会長はじめ、委員一同、救霊と霊的復興を祈っております。本会は創設して 48 年目。8 月 22 日～ 24 日の日本伝道の幻を語る会の講師は、伝道に熱く燃える日本キリスト教団議長石橋秀雄先生、若手のホープ陣内大蔵先生、尼僧からエバンジェリストへ藤井圭子先生です。(深谷春男=実行委員長)

●日本国際飢餓対策機構

・肉的にも霊的にも飢餓で苦しんでいる人たちがいなくなるように、共に分かち合い助け合う共生社会が広がっていくこと。

・仙台に事務所を構え長期的に震災復興支援を行うので、そのために必要なものが整えられるよう。

●日本聖書協会

東日本大震災で被災された方々の上に神様のみことばが届けられますようにお祈りください。日本聖書協会では被災された子どもたちに「マンガ聖書」「絵本聖書」を、聖書を失くされた教会に「備え付け用の聖書」を届ける支援活動を行っています。また「聖書と音楽の出会い」のイベントを通じて、各地で募金を呼びかけるチャリティーも行っています。今後も支援の働きがさらに広がり、守られますようにお祈りください。

●PBA・太平洋放送協会

「世の光」、「ライフ・ライン」は、今回の震災で被災した青森、岩手、宮城、福島、茨城でも放送されており、被災者からのレスポンスも届いています。今こそ必要な、聖書からの希望と慰めが、多くの方に届くよう、番組が用いられますようお祈りください。

●ハーベスト・タイム・ミニストリーズ

・インターネットで無料公開しているメッセージが用いられますように。
・現在札幌で聖書塾を開講しています(秋は東京と福岡で開講)。次世代リーダー育成のためにお祈りください。

●高校生聖書伝道協会(hi-b. a.)

震災後、3 月に予定していた関東の高校生の活動はすべて中止といたしました。が、新年度が始まり、再開しています。高校生の救いと成長のために、働きのすべてが用いられるようお祈りください。

●B. F. P. Japan(ブリッジス・フォー・ピース)

B. F. P. Japan が日本とイスラエルに仕える団体として、「イエス様ならど

うされるか」を真剣に求め、適切な働きをすることができるように。とり

『協力』72号

発行日:2011年5月25日

発行所:伝道団体連絡協議会 郵便番号101-0060の〒東京都千代田区神田龍崎2-2-1が033291に614号室
TEL.03-3291-5035 FAX.03-3291-5266 www.dendankyo.com info@dendankyo.com

発行者:姫井雅夫

印刷:新生宣教団(1,000部)